

令和3年度 ICT活用実践研究 実績報告書

| | | | | |
|-----------------------|---|----|------------------|---|
| 所属校園 | 附属旭川中学校 | | 形態 | <input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 団体・グループ |
| 研究代表者 (申請者) | 氏名 | | 職名 | 備考(分担等) |
| | 嶋田善行 | | 教諭 | 研究主任 |
| 研究分担者 (団体・グループの場合) | 関健太 | | 教諭 | |
| | 菅原大 | | 主幹教諭 | |
| | 杉浦広憲 | | 教諭 | |
| | 林亮輔 | | 教諭 | |
| | 老松謙 | | 教諭 | |
| 研究題目 | ICTを利活用し、本校と他校をつないだ研修や授業支援の在り方～効率的な研修機会や、他校との協働的な授業を生み出す取組～ | | | |
| 経費支出内訳 | | | | |
| 事項 | 単価 [円] | 員数 | 金額 [円] (消費税込) | 備考 (内訳・特記事項等) |
| [設備備品費] | 0 | 0 | 0 | iPadスタンド(卓上用, フロア用) ・サンワサプライ100-LATAB013BK ・ " 100-MR140 ・ " 100-MR172 |
| [消耗品費] | 3,7220 | 5 | 18,610 | |
| | 7,370 | 1 | 7,370 | |
| | 9,020 | 1 | 9,020 | |
| [旅費] | 0 | 0 | 0 | |
| [人件費・謝金] | 0 | 0 | 0 | |
| [その他] | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | | | 35,000 | |

【研究実績の概要、得られた成果・効果等】

1 研究概要、研究目的、研究方法

(1) はじめに

国が進める「GIGAスクール構想」で、各校に配備される“高速無線LAN”，生徒全員に貸与される“タブレット端末”の整備により、学校内外を広くつなげた学びが可能となっている。

国立系の学校には、全国の公立学校に先駆け、具体的な活用を含め、その実現が求められる。本校ではこれまでも、“日本最北に位置する附属学校”としての責務を果たすべく、学習指導要領に基づく具体的な指導の在り方、指導方法等について、広く全道に発信してきたところである。今後は、北海道の“広域分散型”の特徴への対応や、“初任段階教員研修”

受け入れ時に感じている、道内各地域で孤立する若手教員に対する日常的な支援が必要であると考えている。

また、「コロナ禍」が続く世の中であって、感染リスクを高めるような行動の制限が教員にも求められ、今まで普通に行ってきた、本校に来校いただいたの研修が難しい現実もある。

(2) 研究の概要

本校では、これまでも「学びの保障・よりよい学び」を合言葉として、日々、指導の改善・充実を目指してきた。これらの研究成果等について、来校型の研究会やWebページで発信してきたが、地域的な特性、時間や移動に係るコストを抑えた還元方法や、研修したい教員に対し“いつでも”，研修したい教員の勤務地に関わらず“どこでも”支援できる方法の確立が急務であると考えた。

そこで、急速に発展するICTを利活用し、本校と希望する当該校（教員や生徒）をつなぎ、ライブで研修や授業を行うなどの支援を考え、令和元年度から、宗谷管内、留萌管内、十勝管内、オホーツク管内へと接続の幅を広げて実証実験を進めてきた。

そのスタートは、文部科学省指定の実践校（幌延町立幌延中学校）と連携した取組であったが、実践を進めるとともに、その“可能性”と、先進校が直面した“課題”について知見を得ることができた。

(3) 本実践の可能性と想定される課題

“可能性”については、本校と連携する当該校をネットワークで結ぶことにより、他地区・他地域の学校に対し、“ライブで授業発信”できることや、“教員同士が指導方法等について質疑・応答が手軽に行える”ことであり、これにより北海道の“広域分散型”の特徴を克服する可能性も感じた。

また、主たる“課題”については、配信する授業の“質的な担保”や“発信するに値する具体的な指導方法や資料”であったが、附属学校としては日頃から研究を推進し、実践している“当たり前のこと”であり、教員全員で取組の意義を共通理解し、実証実験を進める状況にあると判断した。

2 実践の実際

(1) 初任段階教員研修（2年次：北海道教育委員会 主催）悉皆研修

本研修は、これまでも、北海道教育委員会（上川教育局）から依頼があり、実施してきたものである。「コロナ禍」に入る前は、上川管内の初任段階教員（2年目）を対象として、本校に来校し、実際の授業参観と、教科担当との質疑応答を行ってきた。

毎年、参加者の意識調査を“中立の立場”から上川教育局が担当しているが、満足度が高い研修である。

本校としても、授業実践を主として、専門の免許を持つ受講者（若い教員）に対し、直接、疑問や質問に応えることができる貴重な場となっている。

これを機として、日常的に“学習指導について”など、本校教員に対して、メールや電話で照会する関係性も築くことができるメリットがある。

令和3年度は、「コロナ禍」により、遠隔での研修を、7教科 12名に対して実施している。

《実施日》

- ・令和3年9月 8日（水）（教科が、国語、保健体育、英語の教諭）
- ・令和3年9月 9日（木）（教科が、数学、理科の教諭）
- ・令和3年9月 10日（金）（教科が、社会、技術家庭科の教諭）



《日程等》

| | | | | | | | | | | | | |
|--------|-----------|------------------------|------------------|------------------|-------|-----------------------------------|--------------------------------|--------|--|-------|--|-------|
| | 9:45 | 10:20 | | | | | | 16:00 | | | | |
| | 10:05 | | 10:45 | | 11:45 | | 12:35 | 13:25 | | 14:30 | | 15:30 |
| 受 付 | オリエンテーション | 【説明】 視察校の教育活動に関わる説明 | 【授業参観】 参観授業 1 | 【授業参観】 参観授業 2 | 昼食・休憩 | 【研究協議】 視察校の教員等との協議 公開授業について | 【協議・演習】 指導主事と初任 段階教員との協議 | 研修のまとめ | | | | |

※令和3年度の本研修は、日程の全てを“遠隔で実施した。”

「コロナ禍」により、来校型の公開研究会も実施できないため、各教科の研究実践をまとめた映像資料（動画）を作成し、この「授業動画」を受講者は予め視聴し、各日の午後13時25分から14時30分の間で、「研究協議」を実施した。

(2) 初任段階教員研修（2年次：旭川市教育委員会 主催）悉皆研修

本研修は、これまで、旭川市教育委員会（中核都市）から依頼があり、実施してきたものである。「コロナ禍」に入る前は、北海道教育委員会の研修と同日開催するケースもあり、旭川市内の初任段階教員（2年目）を対象として、本校に来校し、実際の授業参観と、教科担当との質疑応答を行ってきた。

毎年、参加者の意識調査を“中立の立場”から旭川市教育委員会が担当しているが、この研修も満足度が高い研修である。

本校としても、授業実践を主として、専門の免許を持つ受講者（若い教員）に対し、直接、疑問や質問に応えることができる貴重な場となっている。

これを機として、日常的に“学習指導について”など、本校教員に対して、メールや電話で照会する関係性も築くことができるメリットがある。

令和3年度は、「コロナ禍」により、遠隔での研修を、7教科20名に対して実施している。



《実施日》

- ・令和3年11月24日（水）（教科が、国語、社会の教諭）
- ・令和3年11月25日（木）（教科が、数学、理科、技術の教諭）
- ・令和3年11月26日（金）（教科が、音楽、美術、保健体育の教諭）

《日程等》

| | | | | | | | | | | | | |
|--------|-----------|------------------------|------------------|------------------|-------|-----------------------------------|--------------------------------|--------|--|-------|--|-------|
| | 9:45 | 10:20 | | | | | | 16:00 | | | | |
| | 10:05 | | 10:45 | | 11:45 | | 12:35 | 13:25 | | 14:30 | | 15:30 |
| 受 付 | オリエンテーション | 【説明】 視察校の教育活動に関わる説明 | 【授業参観】 参観授業 1 | 【授業参観】 参観授業 2 | 昼食・休憩 | 【研究協議】 視察校の教員等との協議 公開授業について | 【協議・演習】 指導主事と初任 段階教員との協議 | 研修のまとめ | | | | |

上川管内と同じように、「コロナ禍」に配慮し、各教科の研究実践をまとめた映像資料（動画）を作成し、この「授業動画」を受講者には予め視聴してもらい、上川管内とは違い、市内で移動できるメリットを生かして、来校型で、各日の午後13時25分から14時30分の間で、「研究協議」を実施した。

また、「授業動画」を公開しない美術科には、直接、授業参観してもらった。

(3) 学習指導に関わる説明・質疑

研究推進、学習指導など、任意の学校や教員からの求めには、柔軟に対応している。

本年度も宗谷管内の幌延町立幌延中学校などから、学習指導、特に評価についての研修希望があり、「コロナ禍」であることを踏まえ、遠隔でつないで研修を実施した。



《実施日》

- ・令和3年6月30日（水）遠隔にて、「指導計画」「評価・評定」
- ・令和3年7月6日（木） 〃 ，教務部，研究部，国語，数学，理科，音楽，英語
- ・令和4年1月26日（水）来校予定であったが、「コロナ禍」を踏まえ、遠隔に変更

3 得られた成果・効果等

(1) 教員の声

【研修希望のあった“幌延町立幌延中学校”教員から】

- ・実際の補助簿や自己評価シートを見せていただき、ご助言いただいたことで、来年度の見通しがもちやすくなった。
- ・年間指導計画や題材の計画作成についてのポイントもお聞きできたので、それらを踏まえて作成したいと思います。
- ・評価について、（特に主体的に学習に取り組む態度）の具体的な部分の助言をいただき参考になりました。

【改善点、新たな希望】

- ・遠隔でも授業の雰囲気を感じることができた。その反面、生徒の発言や個人、集団思考の様子は感じにくかったため、コロナ禍が落ち着いたら直接参観させていただきたい。
- ・書く力を伸ばす指導についても興味がある。機会があったら、授業参観やセミナー視聴を通して学びたい。

(2) 今後について

道北地区は、北海道の“広域分散型”の特徴や、少子化による学校規模の縮小、1校当たりの教員数の減少が顕著に見られる地域である。

本校としては、研修希望者は積極的に受け入れる体制を整備しているが、実際の教育現場では、研修を受ける教員が学校を離れることにより、そのための補充教員が必要となることから、研修に出にくい傾向はますます強まっている。

加えて、未だ収束の見えない「コロナ禍」により、学校間の往来も“感染症の拡大を防止する視点”から、避けなければならない状況が続いている。

一方では、学習指導要領の全面実施とともに、評価をはじめとする学習指導に課題意識をもつ教員も多く見られる。

そういった“困り感のある教員”に対して、日時を調整するだけで、いつでも・どこでも研修を受けられる機会を、日本最北の附属学校として、今後も確保していく。